

東海道五十三次を往く

第44回

草津宿

東海道と中山道が合流する交通の要衝



京都・三条大橋を目指して上州や信州を経由してきた中山道と再び合流するのが草津宿だ。合流地点には「右東海道いせみち 左中山道美のち」と書かれた追分道標が立っている。二つの街道が合流する交通の要衝だった草津宿は当然大きな宿場町だった。都市化の波で当時の面影は薄れてしまったが、中でも異彩を放っているのが、2軒あった本陣の一つ田中七左衛門本陣だった。「国指定史跡草津宿本陣」である。現存する本陣では最大級で、江戸時代に建てられた建物はもちろんのこと、吉良上野介、浅野内匠頭、皇女和宮、土方歳三、シーボルトなど歴史上著名な人物の名前が書かれた大福帳など貴重な資料も保存されている。本陣周辺には新しい高層マンションが建つ一方で、昔ながらの木造の商家も残っている。



やばせ道道標(瓢泉堂)

草津宿を後に矢倉橋を渡ってしばらく行くと矢倉道との分岐点に「やばせ道道標」があるが、かつてここに「うばがもち」の茶屋があり、広重が描いた「名物立場」はその茶屋を描いたもの。現在は全国でも珍しいひょうたんを売る店がある。



本陣田中九蔵家跡・脇本陣跡周辺

瓦屋根の旧家などが並ぶ、旧街道らしい雰囲気が続く。篤姫や将軍家茂が利用したという本陣田中九蔵家跡、向かいには脇本陣跡がある。



東海道筋では唯一ほぼ完全に残っている本陣



草津宿本陣

草津宿のシンボルである「草津宿本陣」は、寛永12(1635)年から明治3(1870)年まで約240年間にわたって数多くの大名や公家が休泊のために利用した本陣だ。敷地面積約4300㎡、部屋数39室と、本陣として最大級の規模を誇った。格天の上段の間、畳廊下や湯殿、庭園、台所土間、4棟の土蔵などを見学することができる。国指定史跡。※2025年3月末まで工事のため休館



街道の食

本陣そば(三味そば)

うばがもちや本店の隣にある、その名も宿場そば。海老天、とろろ芋、にしんの3種類のそばにデザートのおうばがもちが付いている。

宿場そば

☎077-562-0816
滋賀県草津市大路 2-13-19



街道の土産

うばがもち

草津産のもち米「滋賀羽二重糯」で作った餅を北海道産小豆のこしあんで包み、その上に白あんと山芋の練りきりを載せて乳房を表している。400年以上の歴史がある草津宿の名物。

うばがもちや本店

☎077-566-2580
滋賀県草津市大路 2-13-19



東海道と中山道の分岐点に立つ火袋付きの追分道標は、街道を往来する人々の寄進によって建てられたと伝えられている。右が東海道、左が中山道。



「写真でたどる、現代の東海道五十三次を往く」上・下巻好評発売中!

人気連載「東海道五十三次を往く」を書籍化。定価は上・下巻各1,650円(税込)。お求めは全国の書店、ネット通販などから。



お求めはこちらからも!

